

6 東 三 河 地 区

〔 豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村 〕

【地区の概況】

東三河地区は県土の東部に位置し、豊川の流域圏として社会的・経済的一体性の強い地区です。

本地区は国際的な自動車港湾である三河港を有し、輸送機械など様々な業種の企業が立地しています。加えて、園芸、畜産などが盛んで農産物販売額は全国有数の規模であり、農工商のバランスのとれた産業構造となっています。

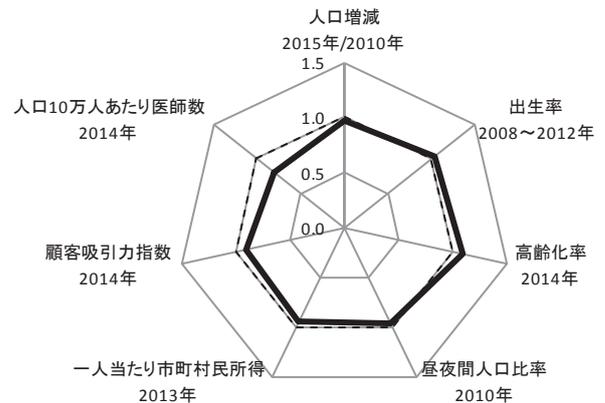
また、奥三河の山岳や三河湾など豊かな自然があり、豊川稲荷の門前町や旧東海道の面影を残す宿場町、奥三河の祭り・民俗芸能など歴史・伝統・文化に培われた多くの地域資源を有しています。

一方、本地区では、既に人口が減少しており、県内でも高齢化率が高い状況にあります。特に北部地域では、集落の維持が困難な小規模高齢化集落を抱えるなど、過疎化・高齢化が深刻な状況となっています。

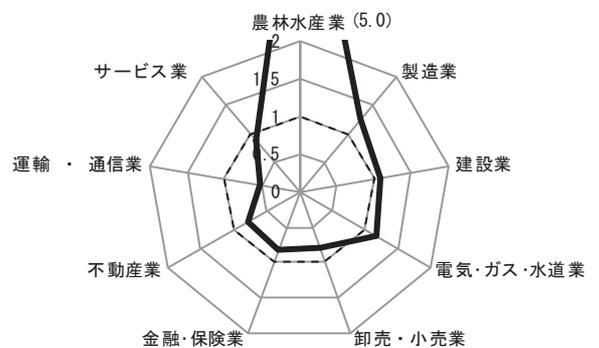


- 人口 757,781人 (10.1%)
- 面積 1,723.44k㎡ (33.3%)
- 人口密度 439.7人/㎡

※人口は2015年10月現在、面積は2014年10月現在、
()内は県内シェア



＜域内総生産構成比の全県との比較＞



〔 全県データ（点線）を1として、
この地区の指数を実線で図示 〕

1 人口

東三河地区の2015年の人口は757,781人（2010年比99.0%）、県内シェアは10.1%となっています。

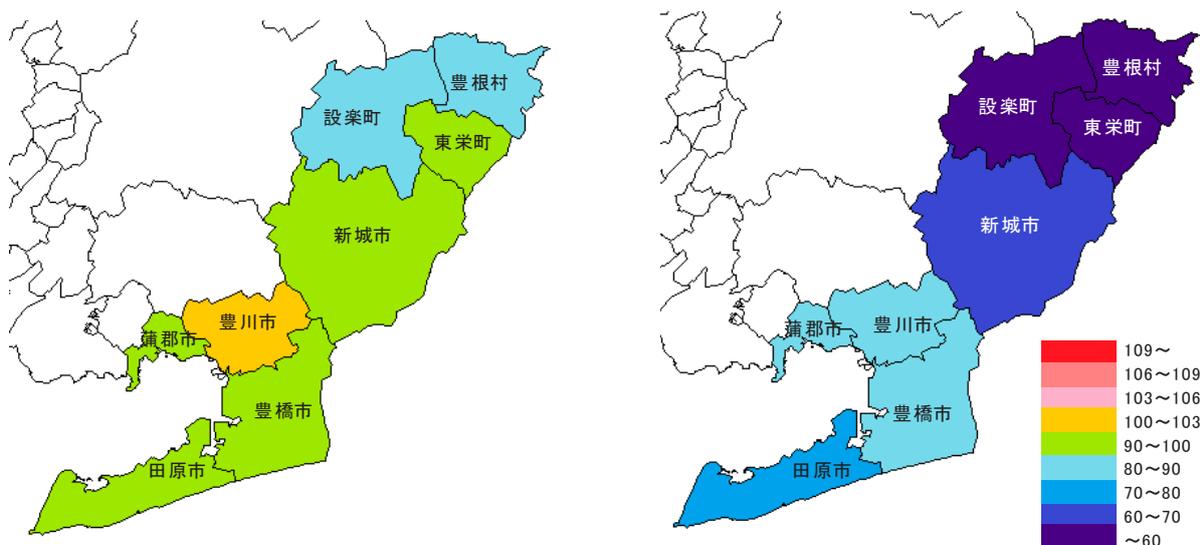
市町村別に見ると、豊川市（2010年比100.3%）を除く地区内市町村で人口が減少しており、豊根村（同年比85.0%）、設楽町（同年比88.0%）、東栄町（同年比91.8%）で減少率が大きくなっています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の地区内の人口は653,898人（2010年比85.4%）に減少すると見込まれています。減少率が高いのは、東栄町（同年比44.3%）、設楽町（同年比49.7%）、豊根村（同年比51.5%）などとなっています。また、高齢化率は、2010年比で+12.2ポイントの上昇と、県平均（+12.2ポイント）と同程度であるものの、新城市（+13.1ポイント）、豊橋市（+13.0ポイント）、田原市（+13.0ポイント）などで大きな上昇が見込まれるほか、設楽町、東栄町、豊根村では、高齢化率が50%を超える見込みとなっています。

■総人口の推移

◇2015年（2010年を100とした比較）

◇2040年（2010年を100とした比較）



	総人口（人）					増減率	
	2000年	2005年	2010年	2015年	2040年	2010年→2015年	2010年→2040年
愛知県	7,043,300	7,254,704	7,410,719	7,484,094	6,855,632	101.0%	92.5%
東三河	756,104	766,769	765,687	757,781	653,898	99.0%	85.4%
豊橋市	364,856	372,479	376,665	374,883	337,646	99.5%	89.6%
豊川市	176,698	181,444	181,928	182,530	158,772	100.3%	87.3%
蒲郡市	82,108	82,108	82,249	81,150	66,959	98.7%	81.4%
新城市	53,603	52,178	49,864	47,150	34,415	94.6%	69.0%
田原市	65,534	66,390	64,119	62,407	50,886	97.3%	79.4%
設楽町	6,959	6,306	5,769	5,077	2,867	88.0%	49.7%
東栄町	4,717	4,347	3,757	3,448	1,665	91.8%	44.3%
豊根村	1,629	1,517	1,336	1,136	688	85.0%	51.5%

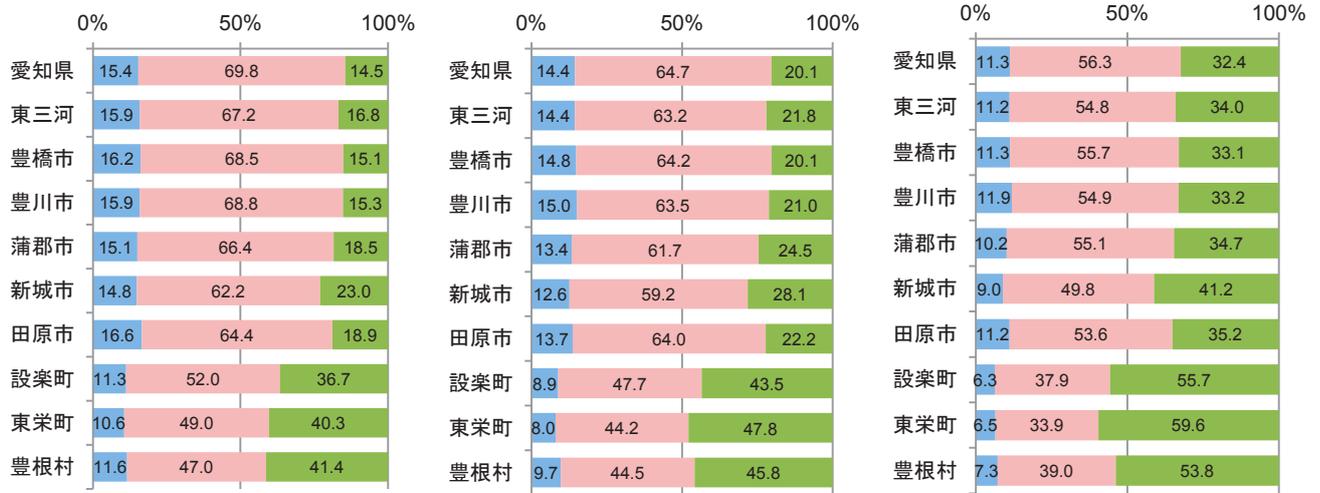
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合

2000年

2010年

2040年



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

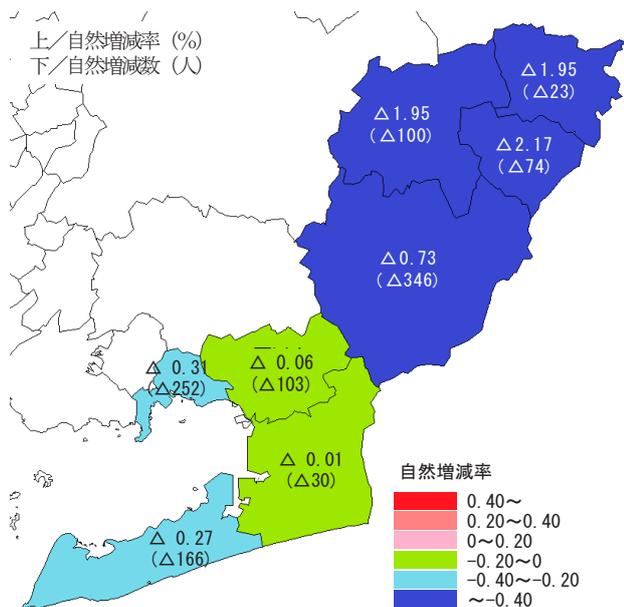
2 自然増減

東三河地区の2014年の自然増減率[※]は-0.14%の減少で、1,094人の自然減となっています。自然増減率を市町村別に見ると、全市町村でマイナスとなっており、特に東栄町（-2.17%）、設楽町（-1.95%）、豊根村（-1.95%）などでマイナスが大きくなっています。

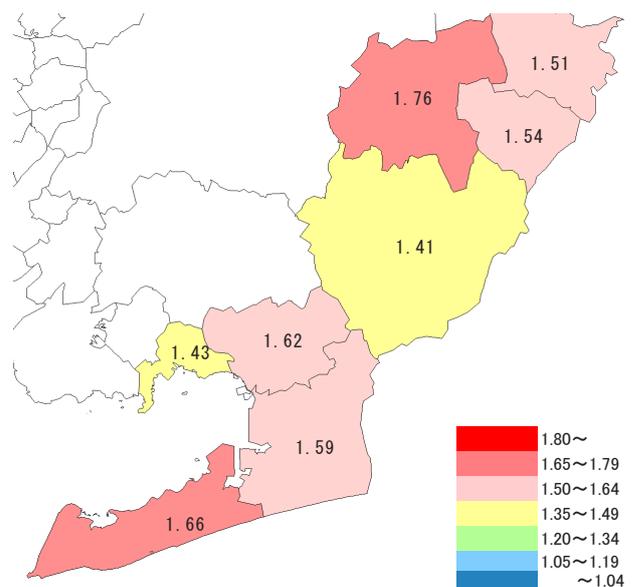
また、合計特殊出生率（2008年～2012年）を市町村別に見ると、設楽町（1.76）、田原市（1.66）などで高く、新城市（1.41）、蒲郡市（1.43）で低くなっています。

※自然増減率=自然増減数/総人口×100

■自然増減の状況（2014年）



■合計特殊出生率（2008年～2012年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

出典：厚生労働省「2008年～2012年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

3 転出入の状況

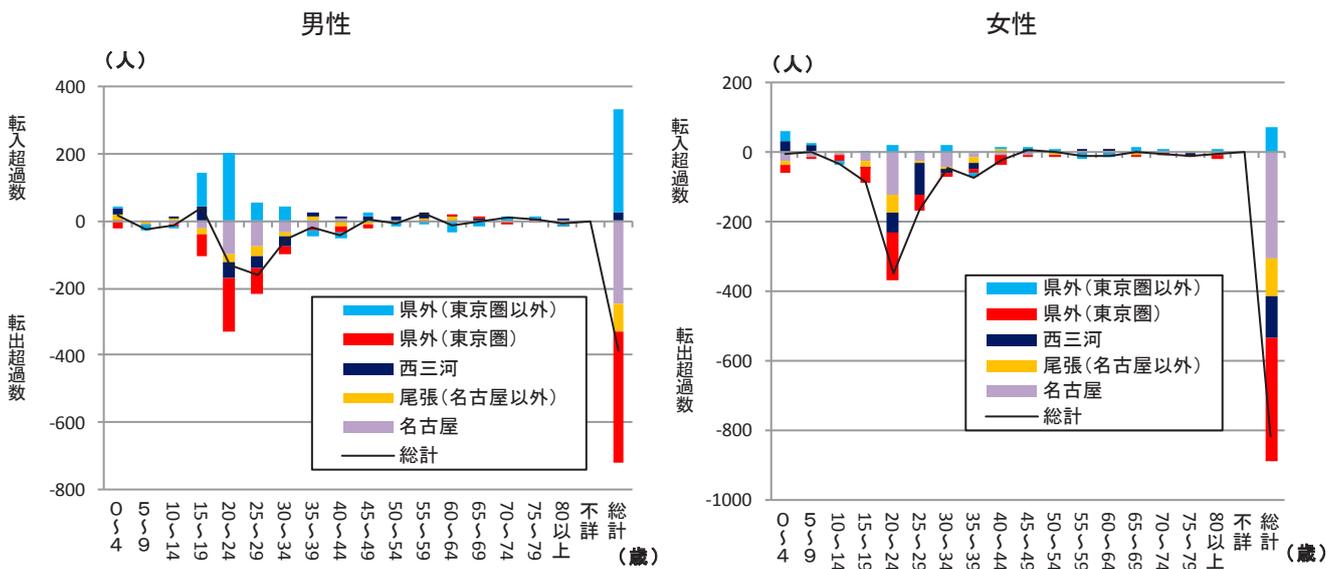
東三河地区の2014年の転出入は、1,204人の転出超過となっています。東京圏、名古屋、尾張（名古屋以外）などに対して転出超過となっている一方、静岡県などに対して転入超過となっています。

男女別に見ると、男性は20～44歳で転出超過が多くなっているのに対し、女性は15～29歳の若年女性を中心に大幅な転出超過となっています。男性は県外（東京圏以外）からの転入が多くなっています。女性はほぼ全ての地域に対して転出超過となっています。

■転出入の状況（2014年）



＜5歳階級別純移動数＞



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2014年）

4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

東三河地区の2010年の昼夜間人口比率^{※1}は97.4（2000年比-0.5ポイント）、就従比^{※2}は0.96（同年比-0.01ポイント）、通学比^{※3}は0.89（同年比-0.05ポイント）となっています。他地区と比べて求心力は高くはありませんが、東三河地区内での通勤割合が86.3%と職住近接型の構造となっています。

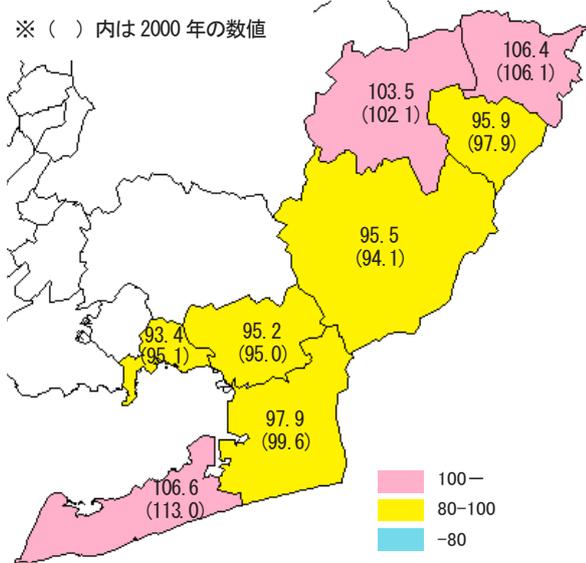
市町村別に見ると、昼夜間人口比率は、田原市（106.6）、豊根村（106.4）、設楽町（103.5）で100を超えています。就従比は、豊根村（1.16）、田原市（1.12）、設楽町（1.07）が高く、通学比は、設楽町（1.08）、豊橋市（1.01）で高くなっています。

また、当地区は静岡県西部（浜松市・湖西市）とのつながりが見られ、湖西市に対しては、通勤面で豊橋市や豊川市から流出している状況です。

- ※1 昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口（常住人口）×100。100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示します。
- ※2 就従比＝従業地就業者数／常住地就業者数。就従比が1を下回ると、就業者の他地域への流出を示します。
- ※3 通学比＝就学地通学者数／常住地通学者数。通学比が1を下回ると、通学者の他地域への流出を示します。

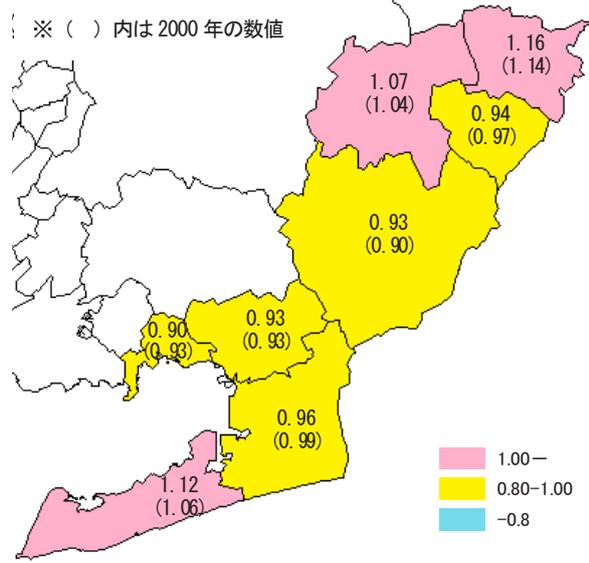
■昼夜間人口比率（2010年）

※（ ）内は2000年の数値



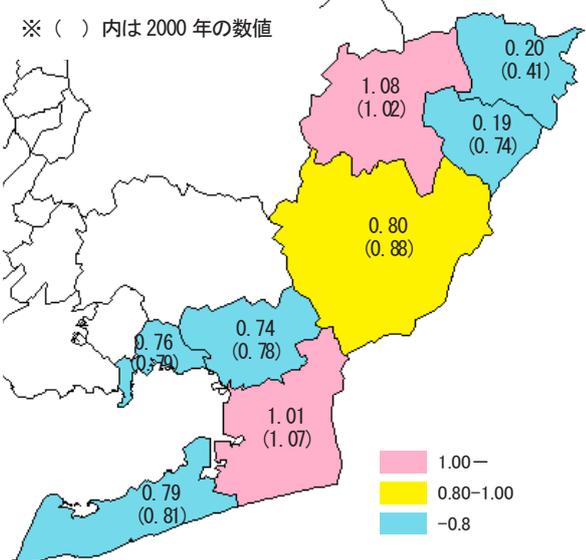
■就従比（2010年）

※（ ）内は2000年の数値

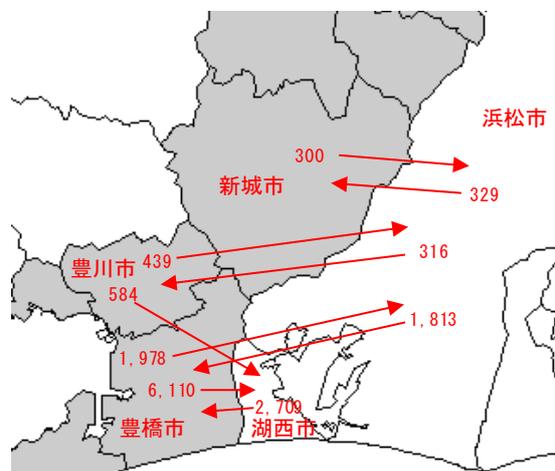


■通学比（2010年）

※（ ）内は2000年の数値



■静岡県西部との通勤流動（2010年）



出典：総務省「国勢調査」

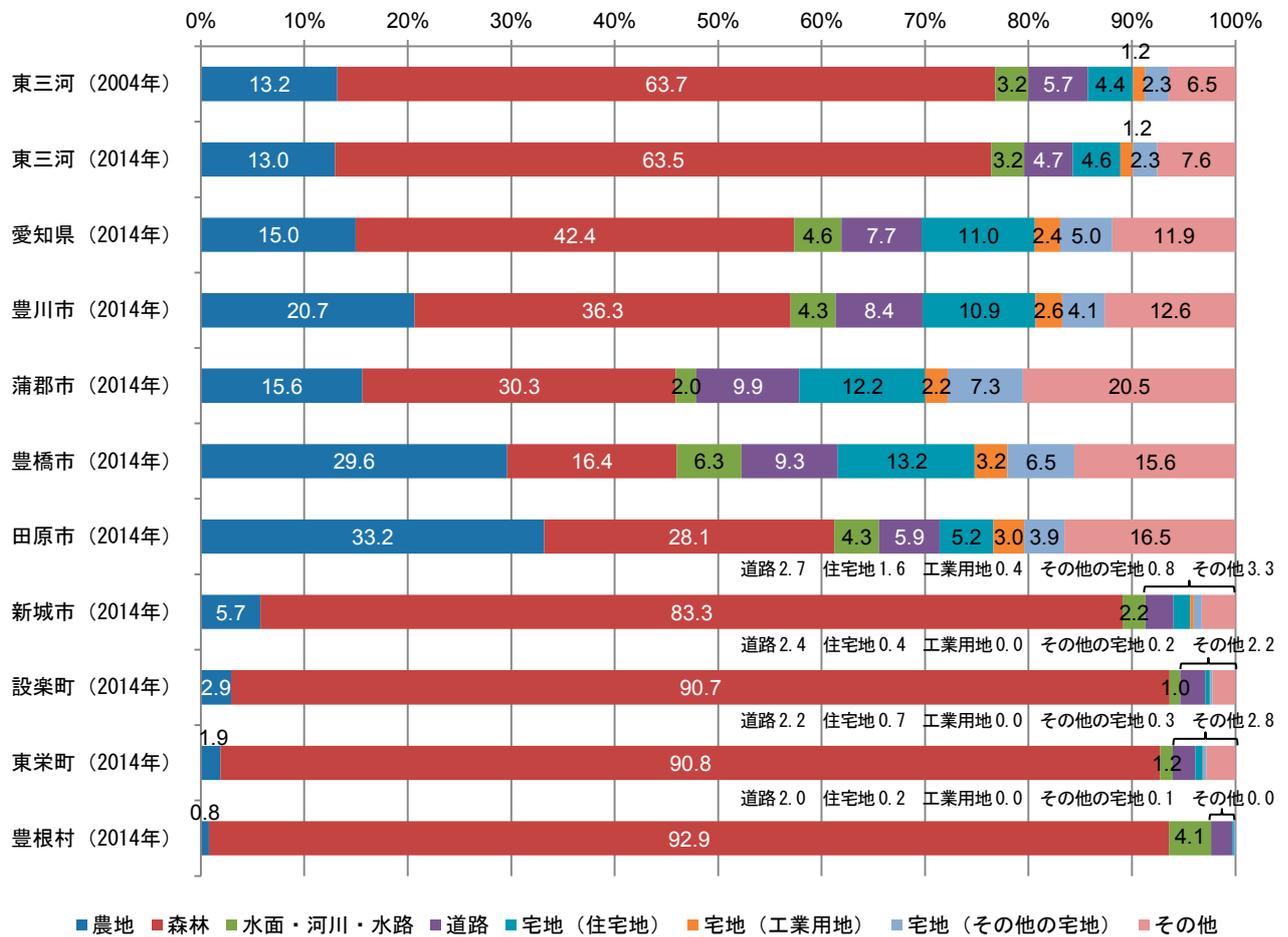
5 土地利用

東三河地区の2014年の地目別土地利用状況を見ると、森林63.5%、農地13.0%、宅地8.2%などとなっています。宅地の内訳は、住宅地が4.6%、工業用地が1.2%、その他の宅地（商業・業務用地など）が2.3%となっています。

県全体と比較すると、森林（+21.1ポイント）の割合が高くなっています。また、2004年と比較すると、農地（-0.3ポイント）、森林（-0.3ポイント）の割合が減少する一方、住宅地の割合が増加（+0.2ポイント）しています。

市町村別に見ると、新城市、設楽町、東栄町、豊根村は、森林の割合が80%を超えています。また、田原市は、農地の割合が33.2%と高くなっています。

■土地利用の現況



※端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。また、上記の説明と差引の数値が合わない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

※宅地：住宅地、工業用地、その他の宅地の合計

6 産業

(1) 就業構造

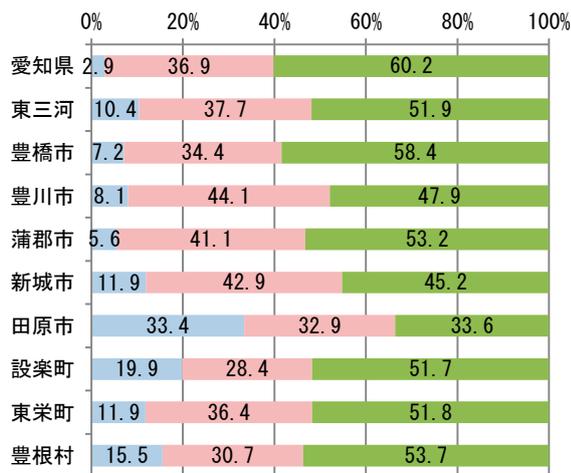
東三河地区の2010年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が8.9%（県：2.3%）、第2次産業従事者比率が35.1%（県：33.3%）、第3次産業従事者比率が56.0%（県：64.4%）であり、バランスのとれた就業構造を有しています。

2000年と比較すると、第1次産業従事者比率（-1.6ポイント）、第2次産業従事者比率（-2.5ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+4.1ポイント）が増加しています。

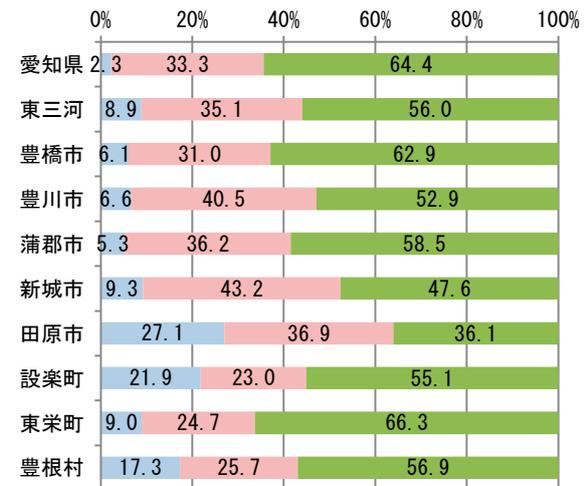
市町村別に見ると、多くの市では、県全体と同様に、第1次、第2次産業従事者比率が低下し、第3次産業従事者比率が増加していますが、田原市では、第1次産業従事者比率が大きく減少（-6.4ポイント）する一方、第2次産業従事者比率が上昇（+3.9ポイント）しています。また、東栄町では、第2次産業従事者比率が大きく低下し（-11.6ポイント）、第3次産業従事者比率が大きく上昇（+14.5ポイント）しています。

■産業別就業者割合

2000年



2010年



■第1次産業比率 ■第2次産業比率 ■第3次産業比率

出典：総務省「国勢調査」

(2) 農林水産業

2010年の農産物販売金額は1,515億円であり、県内シェアは55.6%となっています。当地区は、豊川用水の豊かな水と温暖な気候により、園芸・畜産を主体とする近代的な農業が営まれ、全国屈指の畑作農業地帯を形成しています。農業部門別では、花き・花木415億円、施設野菜298億円、露地野菜230億円などが多くなっています。

市町村別に見ると、田原市が783億円で県全体の販売金額の28.7%を占め、県内のみならず全国でも第1位の販売金額となっています。農業部門別では、キク・カーネーションなど花き・花木が322億円、キャベツ・ブロッコリーなど露地野菜が138億円と多くなっています。

次いで、豊橋市が412億円で県全体の販売金額の15.1%を占め、県内第2位、全国第7位の販売額となっています。農業部門別では、トマト・大葉など施設野菜が124億円、キャベツ・はくさいなど露地野菜が80億円と多くなっています。

北部山間地域は、森林が約9割を占めており、耕地面積は大きくはありませんが、地域の特徴を生かして、野菜、花き、果樹、茶などの栽培や、畜産が行われています。また、林業については、素材生産量（2014年）の県内シェア6割を占めています。

加えて、水産業では、採貝漁業や底びき網漁業、青のり・あゆ・ます養殖などが営まれています。

■農産物販売金額（2010年）

	販売金額	内訳（上位3位）				販売金額	内訳（上位3位）		
		花き・花木	施設野菜	露地野菜			花き・花木	露地野菜	施設野菜
東三河	1,514.9	414.7	297.6	230.4	田原市	782.8	322.0	137.5	83.9
豊橋市	412.2	施設野菜	露地野菜	花き・花木	設楽町	24.6	養鶏	酪農	施設野菜
		123.9	80.3	36.5			10.0	3.7	3.6
豊川市	192.0	施設野菜	花き・花木	酪農	東栄町	4.7	養鶏	工芸農作物	露地野菜
		69.5	49.5	14.1			4.3	0.2	0.05
蒲郡市	48.2	果樹類	施設野菜	花き・花木	豊根村	0.3	施設野菜	果樹類	その他の作物
		29.5	13.1	2.6			0.2	0.03	0.02
新城市	50.0	養鶏	酪農	稲作					
		15.9	6.3	5.5					

出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

■農産物販売金額の上位10市町村（2010年）

	市町村	農産物販売金額（億円）
1	田原市（愛知県）	782.8
2	新潟市（新潟県）	546.3
3	都城市（宮崎県）	484.0
4	別海町（北海道）	481.1
5	旭市（千葉県）	447.1
6	浜松市（静岡県）	423.3
7	豊橋市（愛知県）	412.2
8	銚田市（茨城県）	410.8
9	前橋市（群馬県）	390.2
10	熊本市（熊本県）	380.8

出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

■素材生産量（2014年）

	素材生産量（100m3）	構成比
愛知県	1,159	
東三河	685	59.1%
豊橋市	5	0.4%
豊川市	3	0.3%
蒲郡市	0	0.0%
新城市	194	16.7%
田原市	17	1.5%
設楽町	321	27.7%
東栄町	85	7.3%
豊根村	60	5.2%
他地区	473	40.8%

※端数は四捨五入しているため、内訳と計は一致しない。

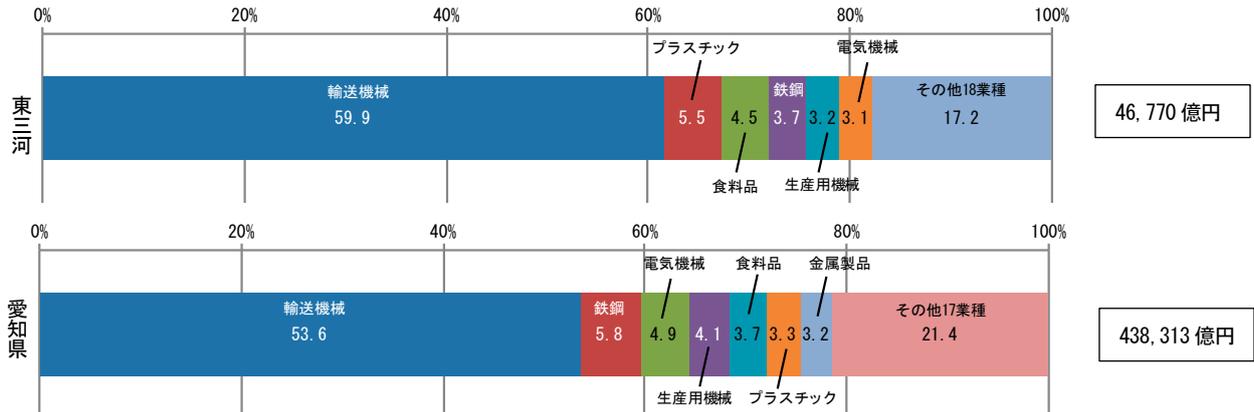
出典：愛知県「愛知県林業統計書」（2014年）

（3）製造業

東三河地区の2014年の製造品出荷額等は4兆6,770億円であり、県内シェアは10.7%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が59.9%、プラスチックが5.5%、食料品が4.5%などとなっています。

市町村別に見ると、田原市が2兆536億円で最も多く、次いで、豊橋市が1兆2,367億円、豊川市が8,159億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2014年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

■市町村別製造品出荷額等（2014年）

市町村	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	438,313	795,496	16,795
東三河	46,770	86,565	1,813
豊橋市	12,367	32,081	747
豊川市	8,159	23,831	498
蒲郡市	2,478	8,705	305
新城市	3,126	7,300	158
田原市	20,536	14,237	81
設楽町	88	253	12
東栄町	14	141	9
豊根村	0.5	17	3

出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

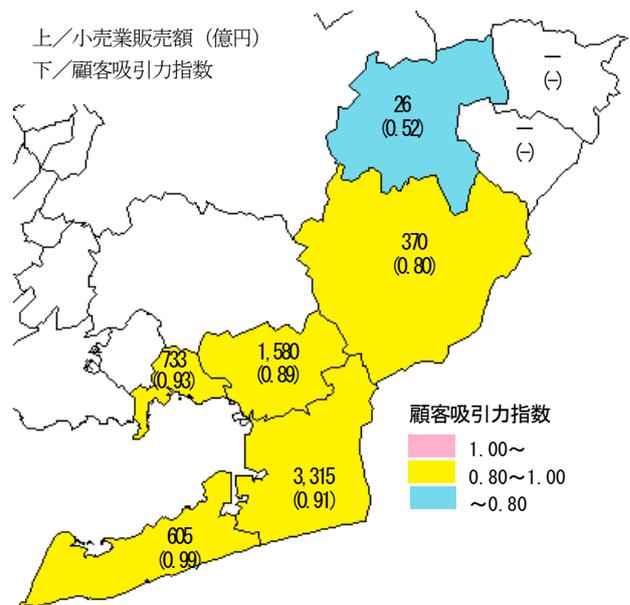
（4）商業

東三河地区の2014年の小売業販売額は6,628億円であり、県内シェアは9.1%となっています。また、顧客吸引力指数※は0.90となっています。

市町村別に見ると、小売業販売額は、豊橋市が3,315億円、次いで豊川市が1,580億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数が1.00を超えている市町村はありません。

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると見ることができます。

■小売業販売額（2014年）



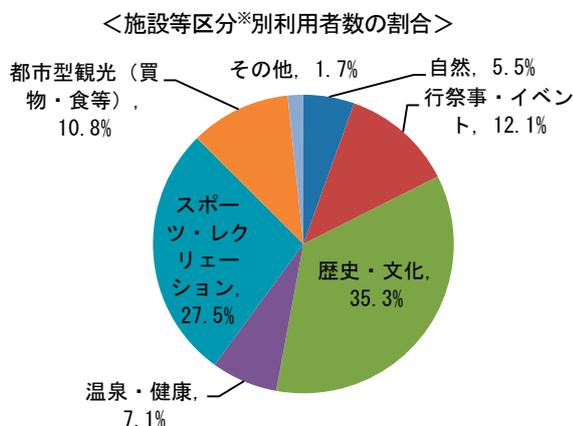
出典：経済産業省「商業統計」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

7 観光

東三河地区の2014年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「歴史・文化」が35.3%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が27.5%、「行祭事・イベント」が12.1%となっています。利用者数上位の観光資源は、豊川稲荷（年間5,000,000人；豊川市）、ラゲーナテンボス（年間3,125,416人；蒲郡市）、豊橋総合動植物公園（年間680,912人；豊橋市）などとなっています。

また、当地区は、花祭、三河の田楽などの多彩な祭り・民俗芸能や、渥美半島周辺の景観、山間部の茶臼山、鳳来寺山などの山々をはじめ多様な観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計（2014年）



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源（利用者数上位10位）＞

順位	観光資源名	市町村	利用者数（人）
1	豊川稲荷	豊川市	5,000,000
2	ラゲーナテンボス	蒲郡市	3,125,416
3	豊橋総合動植物公園	豊橋市	680,912
4	めっくんはうす	田原市	626,003
5	伊良湖クリスタルポルト	田原市	603,094
6	豊橋まつり	豊橋市	600,000
7	サンテパルクたはら	田原市	489,973
8	赤塚山公園（ぎよぎよランド）	豊川市	479,730
9	愛知県民の森	新城市	432,330
10	砥鹿神社	豊川市	403,000

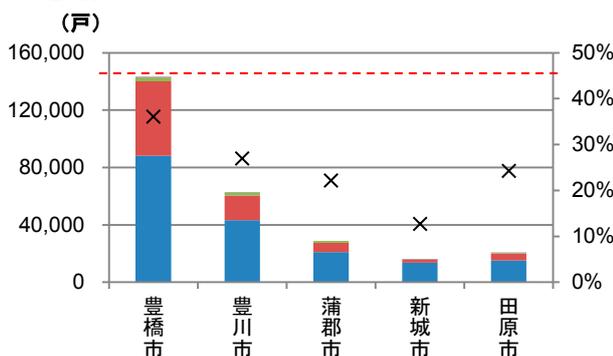
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2014年）

8 住宅

東三河地区の2013年の住宅総数（人口15,000人未満の町村を除く*）を見ると、豊橋市が143,190戸で最も多く、次いで豊川市が62,890戸、蒲郡市が28,910戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、地区内全市で県平均（46.3%）を下回っています。

空き家率を見ると、蒲郡市（15.0%）、豊川市（14.0%）、豊橋市（13.3%）などで県平均（12.3%）を上回っています。

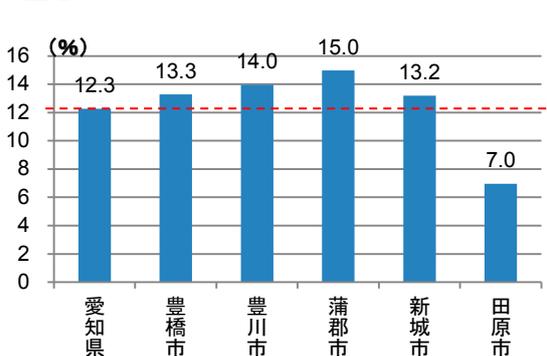
■住宅総数（2013年）



■一戸建 ■共同住宅 ■長屋建 ■その他 ×共同住宅の割合

※赤線は共同住宅の割合の県平均（46.3%）

■空き家率（2013年）



※赤線は空き家率の県平均（12.3%）

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）

※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

9 医療・福祉

東三河地区の2014年の人口10万人当たりの医師数は172.2人であり、県平均（213.9人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、東三河南部医療圏175.5人、東三河北部医療圏131.4人であり、東三河北部医療圏では、県平均を大きく下回っています。

また、本県が2015年に実施した調査によると、医師不足による診療制限をしている病院の割合は24.4%となっています。二次医療圏別に見ると東三河南部医療圏は22.9%、東三河北部医療圏は33.3%となっており、東三河北部で県平均（22.4%）を大きく上回っています。2007年の状況と比較すると、東三河南部は3.4ポイント低下、東三河北部は16.6ポイント上昇しています。

■人口10万人当たり医師数（2014年）



※赤線は県平均（213.9人/10万人）

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

■医師不足を原因とした診療制限を行っている県内病院の割合

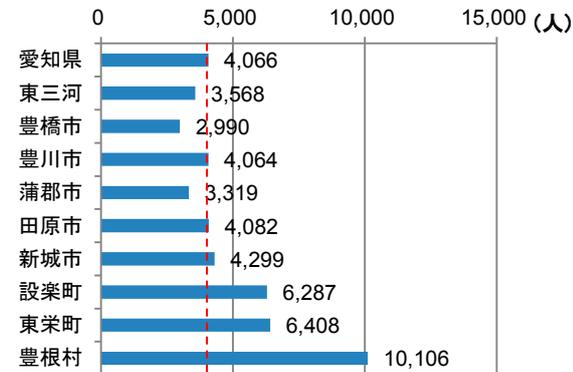
	2007年6月末			2015年6月末		
	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合
愛知県	338	62	18.3%	322	72	22.4%
東三河	44	11	25.0%	41	10	24.4%
東三河南部医療圏	38	10	26.3%	35	8	22.9%
東三河北部医療圏	6	1	16.7%	6	2	33.3%

出典：愛知県「県内病院における医師不足の影響に関する調査結果」

高齢者向け施設について、2014年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は3,568人と、県平均（4,066人）を下回っています。市町村別に見ると、豊根村、東栄町で県平均を大きく上回る一方、豊橋市、蒲郡市で大きく下回っています。

また、2014年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は93.0%であり、地区内に100%を上回る市町村はありません。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2014年）

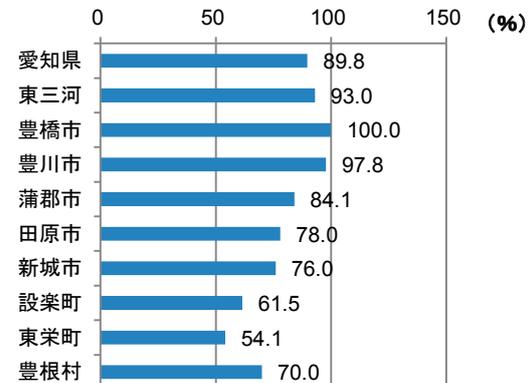


※赤線は県平均（4,066人/10万人）

出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」（2014年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

■保育所充足率（2014年）



【東三河地区における県の主な取組】

当地区は、農工商のバランスのとれた産業構造を有し、豊かな自然や様々な歴史・伝統・文化など多くの地域資源を有している一方、人口減少と高齢化が県全体に先行しています。県では、2012年4月に「東三河県庁」を設置し、市町村や経済団体、大学等との連携を深め、一体となった地域づくりを進めているところであり、次世代産業や農林水産業をはじめとした多様な産業・雇用の創出、豊かな地域資源を生かした魅力の創造・発信、山間地域の暮らしを支える環境整備や移住・定住の促進などに取り組んでいます。

（多様な産業・雇用の創出）

豊橋技術科学大学や（株）サイエンス・クリエイトなどを核とした産学行政の連携を図りながら、集積の厚い自動車産業の高度化のほか、豊かな自然環境を生かした環境・エネルギー産業や、再生医療や医療機器をはじめとする健康長寿産業など、次世代分野の産業振興を図っています。

農林水産業では、「食農産業クラスター推進協議会」において、植物工場や低炭素施設園芸づくりの技術開発・実用化など、農業と工業技術を融合した最先端・高付加価値な農業の展開を図るとともに、水資源機構営豊川用水二期事業などの基盤整備を進めています。また、生産から流通に至る高度で効率的な木材供給システムの構築などによる持続力ある林業の振興や、六条潟をはじめ三河湾の適切な保全と利用などを通じた水産業の活性化を図っています。

更に、「ジビエ・グルメ・グランプリ」の開催を通じて、獣肉の消費拡大を図っているほか、「あいち森と緑づくり税」を活用した人工林の間伐や里山の整備、森林整備の担い手となる技術者の養成等を進めています。



「食農産業クラスター推進協議会」による
植物工場等の推進



「ジビエ・グルメ・グランプリ」の開催

（地域の魅力の創造・発信）

三河湾や渥美半島、茶臼山等の自然、奥三河の「花祭」や手筒花火等の歴史文化、豊川いなり寿司等のご当地グルメなど、当地区の多彩な地域資源を結び付けることにより、「ほの国ブランド」の定着を図り、広域観光エリアとしての魅力の向上・発信に取り組んでいます。

また、「新城ラリー」や「奥三河パワートレイル」の開催・支援をしているほか、ラグーナテンボスや豊橋総合動植物公園などの集客施設などを生かした観光振興を図っています。

更に、2017年度に、テザー級（全長4.52mの2人乗りヨットで軽量の快速艇）の世界選手権大会が決定し、今後も国際大会の開催が期待される海陽ヨットハーバーの機能強化を図っていきます。



花祭の保存・伝承の取組推進



新城ラリーの開催支援

（障害のある人の療育・教育環境の整備）

民間による重症心身障害児者施設の整備を後押しするため、県では、2014年度に30億円の「障害者福祉施設減税基金」を創設しており、その基金を活用し、豊川市において、2017年度の開所に向け、民間法人による施設整備が進められています。また、2015年4月には、豊橋市立くすのき特別支援学校が開校されました。



豊橋市立くすのき特別支援学校

（山間地域の暮らしを支える環境の整備、移住・定住の促進）

三河山間地域では、人口減少・高齢化の進行とともに集落機能が弱体化し、地域社会の維持が困難な地区も発生しつつあります。こうした中で、へき地医療拠点病院、へき地診療所の整備・運営への助成など、地域医療の充実を図るとともに、バス路線の維持や山間道路の整備などの生活交通の確保、携帯電話の不通話地域の解消を図っています。また、2014年4月には、豊橋特別支援学校の分教室「山嶺教室」を田口高等学校内に開設するなど、人々の暮らしを支える生活基盤づくりを進めています。

また、山間地域への移住・定住を促進していくため、「愛知県交流居住センター」において、都市部の住民とのマッチングや、空き家見学ツアーなど市町村が実施する定住促進施策の支援を行っています。そのほか、「三河の山里サポートデスク」における都市部の住民と集落との交流の促進、農林就業支援、起業支援、集落支援や、「山里の魅力創造社」による地域の魅力発信、誘客促進などに取り組んでいます。



愛知県交流居住センター
（ホームページ）



大都市発着の三河山間地域へのバスツアーの実施

（産業や暮らしを支える基盤整備）

2016年2月に新東名高速道路の浜松いなさJCT～豊田東JCT間が開通しました。三遠南信自動車道については、県内未整備区間の鳳来峡IC～東栄IC（仮称）間の整備を進めており、そのうち、東栄IC（仮称）～静岡県境間は2018年度の供用開始をめざしています。また、2014年度から国の直轄調査が進められている浜松三ヶ日・豊橋道路の早期事業化や、名豊道路の全線開通に向けた整備を進めています。

更に、豊橋市からの「東三河一時間交通圏」の基軸となる国道151号、257号、259号、主要地方道長篠東栄線、豊橋渥美線や、交通の円滑化を図り、地域の主要渋滞箇所の解消を目的とする国道247号中央バイパス、都市計画道路東三河環状線などの整備を進めています。このうち、東三河環状線においては、乗小路トンネルを含む約1.1km区間（豊橋市内）が2015年3月に開通しました。

このほか、都市機能の充実に向けて、豊川駅東土地区画整理事業や蒲郡駅南土地区画整理事業などを進めているほか、2014年10月に一部供用開始した「いらごさららパーク」や東三河ふるさと公園の整備を進めています。

国際的な自動車港湾である三河港においては、完成自動車などの取扱貨物の増大に対応するため神野地区や蒲郡地区のふ頭用地整備や岸壁の整備を進めるとともに、ポートセールスなども実施し、国際自動車港湾としての機能強化を図っています。

また、河川・海岸施設の耐震化及び半島先端部など津波到達時間の早い地域の水門の自動閉鎖化や、柳生川など県管理河川のハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策を推進しています。



新東名高速道路
新城IC周辺（2015年11月）



三遠南信自動車道
鳳来峡ICイメージパース

（広域連携の推進）

東三河地域の地方機関で構成する「東三河県庁」において、県の施策の総合調整を図るとともに、市町村・経済団体等との連携強化、広域的取組の加速化等に取り組み、東三河地域の振興を図っています。

2013年3月に「東三河振興ビジョン（将来ビジョン）」を策定し、ビジョンに位置づけた重点施策を具体化する「主要プロジェクト推進プラン」を毎年度策定しています。

また、2015年1月に設立された「東三河広域連合」について、共同処理事務や広域連携事業等が円滑に進むよう、支援を図っています。

更に、県境を越えた広域連携の先進的モデルともなっている三遠南信連携について、行政や経済、学術、住民活動など、様々な分野における交流連携を進めています。



東三河県庁ポータルサイト
「穂っとネット東三河」



東三河広域連合
看板除幕式（2015年1月）